



「食育」の取組(学校給食週間)

1月29日(水)に給食感謝集会をTV放送で行いました。そこでは、給食の食材を使ったビンゴゲームをしたり、久枝調理場の所長さんに各学年から感謝状を贈ったりしました。全校で作ったカレンダーもお渡ししました。日頃お世話になっている調理場の方々に、子どもたちの感謝の気持ちが届いていると思います。

1月24日から30日は、全国学校給食週間です。戦後の学校給食再開を受け、学校給食による教育効果の促進を目的として決められたものです。潮見小学校では、給食の時間を中心に、様々な食育を展開しています。

毎週、木曜日は「すくすく食育タイム」を放送し、旬の食材や食事の時のマナーなどについて伝えています。

今年度からは、「みんなで食べようデー」も設けていま

す。コロナ禍の中、非対面での給食が続いていました。コロナが明けた後も、慎重な対応をしていましたが、会食の重要性を考慮して、対面での給食を再開しています(ただし、インフルエンザ等の感染症流行時には行っていません。)。友達と楽しく会食をする経験も大事なことだと考えています。会食という点では、ALTと一緒に給食を食べる機会も、今年度から設けています。

学級活動、総合的な学習の時間、家庭科で、栄養教諭が指導に入ることもあります。おやつを取り方を考えたり調理実習をしたりする際に、専門的なアドバイスを受けることができるので、子どもたちにとって強い味方です。栄養教諭が配置されている潮見小学校だからこそ、充実した食育が行われていると思います。

これらの取組の結果、子どもたちは給食をよく食べています。定期的に残食調査を行っていますが、しっかり食べている学年、学級が多いです。中でも、6年生はよく食べるので頼もしい限りです。その日の体調や個人差を十分考慮しなければなりません。健康や成長、食品ロスの観点から、できるだけしっかり食べてほしいという思いはあります。

また、調理への関心の高さも伺えます。調理実習をする姿を見ることがありますが、安全に手際よく行っています。「食べる」ことを楽しんでいっている様子が伝わってきます。やまぶき学級では、自分たちで育てた野菜を調理することが多くあります。調理をすることで、見通しをもちたりみんなと協力したりする力も伸びています。

子どもたちには、食材への感謝、給食に関わる方への感謝、給食委員会の子どもたちへの感謝を忘れずに給食を食べてほしいと思います。「食べること」は「生きること」です。今後も、機会を捉えながら食育を推進していきたいと思いますので、ご家庭でも「食」についてお話をしてみてはいかがでしょうか。

